

## 事例番号 42

Keywords: 自閉症, 知的障害, 携帯電話, コミュニケーション, 主体的活動, 給食, 障害に基づく困難の改善

### 1. タイトル

携帯電話のメール機能を使用することで、要求を伝えるなどのコミュニケーションを円滑にすることを旨とした事例

### 2. 事例の対象となる児童生徒について

知的障害を伴う自閉症・11歳

### 3. 使用する機器と特長

携帯電話

### 4. 使用した機器を選定した理由

文字をうって、相手に見せたり、音声にして伝えたりすることができる。また、携帯しやすく、すぐに機能を利用することができる。

### 5. 個別の指導計画と個別の教育支援計画

自分の要求が人に伝わる経験を積み重ね、人とかかわる喜びを感じることで、人に伝えようとする意欲が高まってくると考える。携帯電話やすぐに伝わるサイン、50音表など様々な状況や環境の中でも、自分の要求が伝わるようにして、コミュニケーションを取る場面を増やしていきたい。

### 6. 指導の内容

個別の課題学習で、提示された絵カードを見て、その名称などを携帯電話に文字を入力して音声で答える活動をしている。また、休み時間など要求を伝えるときに活用するように促している。欲しい物（見たいビデオのタイトルなど）は打ち込むことができているので、「～をください」や「ありがとう」なども伝えるように促している。

### 7. 支援機器の使用効果あるいは、指導の効果と支援機器の評価

文字を見せたり、音声にしたりすることで、担任以外にも正しく伝えることができる。

### 8. まとめと今後の課題

必要なとき（要求を伝えたいときなど）に使用する以外に、普段から好きな言葉をたくさん打ち込み、楽しんでいる様子が見られるようになってきた。そのため、次の活動に切り替えるとき、言葉掛けだけでは応じることができないときがある。

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援学校におけるアシスティブ・テクノロジーの活用ケースブック－49例の活用事例を中心に学ぶ導入、個別の指導計画、そして評価の方法－」（2012/3）に記載された内容である。